

2. 遺伝・育種

データ閲覧・コメント入力可能期間：2021年3月28日0時～4月3日24時（予定）

[P2-09]MIJカメラを用いた画像解析による牛ロース芯面積の測定および BMS判定精度の検証

○島袋 大空¹、鹿野 淳²、小峰 央志²、口田 圭吾¹ (1.帯畜大院畜産、2.MIJ labo)

【目的】狭い牛枝肉横断面でも撮影が可能な MIJカメラを用い、ロース芯面積の計測および BMSの推定を行い、機械格付の可能性を検討した。【方法】2019年10月から12月に全国複数か所の食肉処理場において、MIJカメラを用い計1,047頭の枝肉横断面を撮影した。データにはそれらの格付ロース芯面積、格付 BMSおよび画像解析形質を使用した。また、画像解析形質は専用の画像解析ソフトを用いて算出した。BMS推定には BMS区分推定法を用いた。すなわち、脂肪面積割合、あらさ指数および新細かさ指数の組み合わせにより推定 BMSを定めた。推定 BMSから格付 BMSを減じたものを BMS差とした。【結果】全個体についてのロース芯面積、脂肪面積割合、あらさ指数および新細かさ指数の平均±標準偏差は、それぞれ 61.1 ± 17.9 (cm²)、 48.6 ± 11.0 (%)、 16.7 ± 5.6 (%) および 76.5 ± 17.0 であった。また、全個体における BMS区分推定法による BMS差±1および±2以内の割合は、それぞれ83.5%および97.0%、格付ロース芯面積と MIJカメラから求めたそれとの相関係数は、 $r=0.71$ であった。さらに、格付 BMSごとの BMS差が±1以内の割合は、BMSNo.2から順にそれぞれ93.8、94.8、87.0、86.9、73.6、94.4、72.2、75.5、58.3、51.9および81.8%であった。